



そしう 蘇州にはどのような商品が  
あつ 集まり、取引されていたの  
かを読みとってみよう。

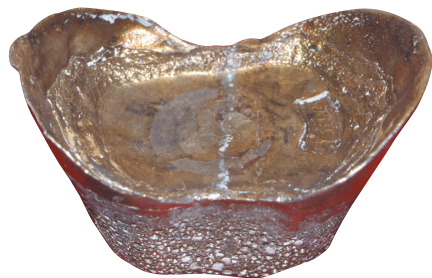


↑1 『盛世滋生図(姑蘇繁華図)』(部分) 明代から、長江下流域では綿・桑などの商品作物が栽培され、絹織物業や生糸生産などの手工業が発達した。図は、縦横にはりめぐらされた運河をさまざまな物資がゆきかう清代の蘇州の繁栄を描いたもの(18世紀)。

3

## アジアの繁栄とヨーロッパ社会の変化

アジアやアメリカ大陸との交易を通じて、ヨーロッパにはどのような商品がもたらされたのだろうか。



↑2 清代の馬蹄銀 銀はこの形で流通し、重さで価値が計算された。

### ユーラシアの結合

大航海時代から世界各地との交易活動を展開していたヨーロッパ諸国は、17世紀以降、自国の商人に貿易の独占を認める特許状を与えるなど、交易活動を支援した。とりわけアジアとの交易では、特権会社である東インド会社が設立され、アメリカ大陸で産出された銀と交換に、香辛料・香料や絹織物業・宝石などの物産がヨーロッパにもたらされた。

アジアとヨーロッパとの交易活動は、ユーラシア大陸の各地域をむすびつけただけではなく、アジアとヨーロッパの両方で経済発展をうながした。両地域では、農村部を中心に工業が発展して都市や商人層が力を持ち、人口が増大するなど、共通の現象がみられた。

### 清とアジアの繁栄

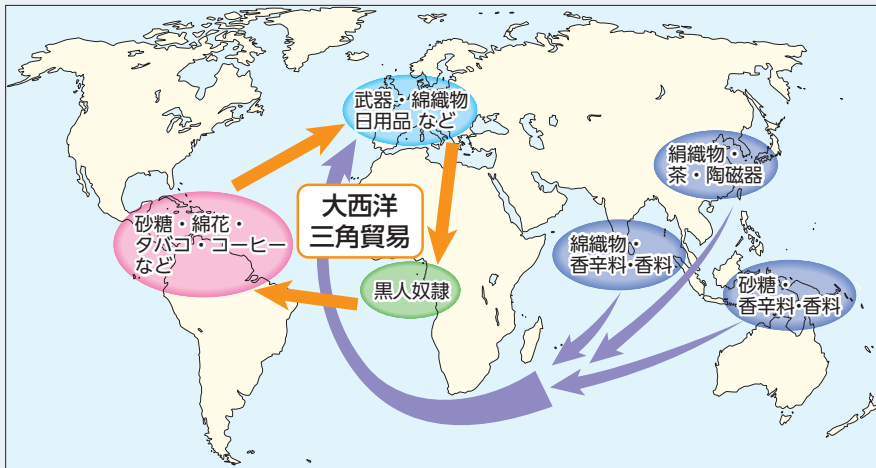
中国の長江下流域では、明の中期以降、水田の一部が綿花や桑の畑に転換され、絹・絹織物業がさかんになり、稲作の中心は長江中流域に移った。商品の生産がさかんになると、全国的な商業のネットワークが形成され、経済活動がいつそう活発となった。また活動の拠点として都市が繁栄し、都市在住のゆたかな庶民が生まれ、庶民文学もさかんになった。

16~17世紀には、日本の石見銀山などで産出された銀(日本銀)や、スペインによってアメリカ大陸から運ばれた銀(メキシコ銀)が、絹や陶磁器などと交換されて中国に流入した。その結果、農村でも銀が主要通貨となり、税制も銀による納税へと転換した。また、ア

↑3 東南アジアに渡った人々は、のちに華僑とよばれるようになった。

### そのころ日本は

世紀	17	18	19	20	21	
時代	1603	1868	明治	1912 大正 1926	昭和	1989 平成 2019 令和



↑3 17～18世紀におけるヨーロッパの交易 ヨーロッパから武器や絹織物などを西アフリカに輸出して黒人奴隷と交換し、それをアメリカ大陸や西インド諸島に運び、その労働力を使ってプランテーション農園で栽培した砂糖・タバコ・コーヒーなどをヨーロッパに運んだ。イギリスは、この貿易によって獲得した巨大な利益を基盤として、産業革命(→p.38)を実現した。



↑4 ロンドンのコーヒーハウス  
コーヒーハウスには、文人やジャーナリストなどが集って政治や文化を論じる場となった。

✓ **チェック**  
コーヒーハウスで提供されたコーヒーや紅茶はどこから運ばれてきたのだろうか。

リカ大陸原産のトウモロコシやサツマイモの栽培がひろまったことで人口が急増し、都市や内陸へ移住したり、東南アジアへ移動するものが増えた。さらに清の繁栄は、東シナ海・南シナ海の交易ネットワークでつながる海域アジアの経済的発展をもたらした。

5 **ヨーロッパの生活革命** アジアとの交易によって、中国産の茶・絹織物・陶磁器、インド産の綿織物がヨーロッパ市場にもたらされた。アジア産の商品は、はじめは上流階級が消費するぜいたく品であったが、しだいに民衆も生活用品として使用するようになった。のちに産業革命の主要産業となる綿工業では、アジアの綿織物を独自に生産することを動機として技術革新がおこなわれた。

10 またヨーロッパには、大西洋三角貿易によってコーヒーや砂糖がもたらされた。18世紀なかばになると、イギリスではコーヒーの人氣がアジア産の紅茶にとってかわられ、紅茶を飲む習慣がひろがるにつれて砂糖や陶磁器の需要が高まった。このような新たな生活文化の形成(生活革命)にともなって、ロンドンのコーヒーハウスやパリのカフェなどが生まれ、市民の社交や情報交換の場となった。また、出版業の発展によって上流階級から民衆にいたる幅広い読者層があらわれ、啓蒙思想がひろがっていった。さらに明・清を訪れたイエズス会宣教師の報告書などを通じて中国の文物への関心が高まり、シノワズリ(中国趣味)が流行した。

**トライ!** アジアやアメリカ大陸との交易により、ヨーロッパにはどのような変化がもたらされたのだろうか。

**Link** 歴史と現在

イギリス紅茶文化のひろがり



↑5 上流階級のティーパーティー  
中国からの茶の流入とともに、ヨーロッパでは17世紀ごろから上流階級のなかに、紅茶に西インド諸島産の砂糖を入れて飲む文化が生まれ、しだいに民衆にもひろまった。こうした紅茶文化のうち、スコーンやケーキなどの軽食と紅茶を楽しむ「アフタヌーンティー」の習慣は、イギリスの覇権の拡大とともに世界各地にひろまっていった。

**キーワード** 啓蒙思想

18世紀のヨーロッパにひろがった、人間の理性が成熟して拡大するにつれて、無知や偏見などが一掃され、「明るい」社会がつくりあげられるとする思想。ヴォルテールやルソーなどの啓蒙思想家は、社会や国家のしくみを合理的に解釈し、教会や王権を批判した。

ヨーロッパ・アメリカ

北・東アジア